

# NJ 素流協 News

平成28年8月10日  
第139号

平成28年8月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6（農林会館5階）  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## ノースジャパン素材流通協同組合 臨時総会開催

### 下山理事長が退任・後任に鈴木信哉氏

NJ素流協は7月15日、臨時総会を盛岡市のホテル東日本盛岡において開催し、組合員等約70名が出席した。

#### 1 開会・理事長挨拶

はじめに横澤孝一副理事長が開会の辞を述べ、続いて下山裕司理事長が「本日の議題は、理事1名の補充の件であります。私下山は、この度一身上の都合で理事長を退任させていただくことと致しまし



た。我々の事業は今最盛期に入っており、本日は理事長の決定まで完結するようご協力をお願い致します。」と挨拶した。

#### 2 議事

議事に先立ち事務局から総会の成立（組合員総数133名中本人出席30名、委任状出席83名）が報告され、続いて(有)白樺林業代表取締役白樺誠一氏が議長に選出され議事に入った。

事務局から、6月10日付で下山理事長より辞任届が提出されたことに伴い理事1名を補充する旨説明があり、議場に諮ったところ選考委員による指名推薦により理事の選出を行うことが決定された。

3名の選考委員により選考が行われた結果、元森林総合研究所理事の鈴木信哉氏が推薦された。議長が承認を議場に諮ったところ、満場一致により承認され、鈴木氏

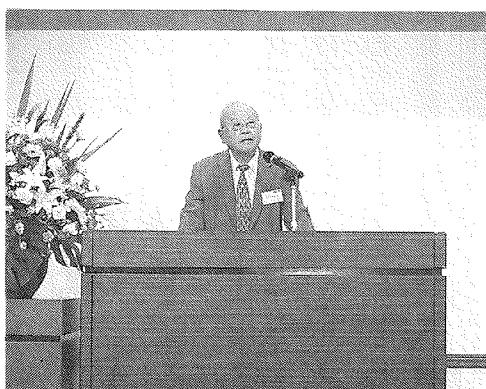
は即時就任を承諾した。  
3 第4回理事会

続いて理事10名の出席のもと、平成28年度第4回理事会が開催された。理事による互選の結果、満場一致により鈴木氏が理事長に選任され、鈴木氏は即時就任を承諾した。

また、退任した下山氏に顧問への就任を依頼する旨決定され、下山氏は即時承諾した。

#### 4 下山理事長退任挨拶

本日、私下山の退任をご承認いただきありがとうございました。私の一身上の都合ということで、時間的に極めて性急な臨時総会の開催となり、ご迷



退任挨拶する下山理事長

惑とご心配をおかけしましたことを陳謝申し上げます。思い起こしますと、ノースジャパン素材流通協同組合は、平成14年9月に岩手県素材流通機構という形で発足しました。翌15年4月に岩手県素材流通協同組合を発展的に設立し、5年後の20年7月にノースジャパン素材流通協同組合と改称致しました。設立以来、足掛け15年になりました。設立時の発起人の一人であったことをもって、私が理事長を拝命致しました。これまで、その時々には解決すべき問題や課題が生じました。特に23年3月11日には、東日本大震災という大きなダメージを蒙りました。しかしこのような苦境が発生するたびに、理事をはじめ、組合員の皆様にたいへんなご理解とご協力をいただきながら乗り越えて参りました。それゆえに、現在ノースジャパン素材流通協同組合は、このようにしっかりと存立致しております。これはひとえに皆様方のご理解とご協力の賜物であります。本当に

心から感謝申し上げます。本日、ノースジャパン素材流通協同組合は新しい理事長を迎えました。本日を契機に、当組合が一段と飛躍していくことを確信しております。しかしそのためには、組合員の皆様方の一層のご理解とご協力をお願いしたいと存じます。最後に、15年という長い期間、ノースジャパン素材流通協同組合の理事長を全うすることができましたこと、また本日無事退任できますことは、ひとえに皆様方のご厚情の賜物であります。ノースジャパン素材流通協同組合の今後についても、ご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

**5 鈴木新理事長就任挨拶**

この度新しくノースジャパン素材流通協同組合理事長に就任致しました鈴木と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。下山前理事長が設立からここまで育ててきた協同組合を引き継ぐ

ということ、決意を新たにしているところでございます。まずもって下山前理事長に感謝申し上げますとともに、顧問として引き続きご指導いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

私は秋田県上小阿仁村の出身でございます。林野庁入庁以来、主に木材産業、特用林産、国有林の販売という、どちらかというところの分野を担当して参りました。昭和25年には、薪炭だけで国内のGNP（国民総生産）の13%を占めており、現在の経済規模に換算すると、500兆円のうち66兆円余りが薪炭だけで賄われてい



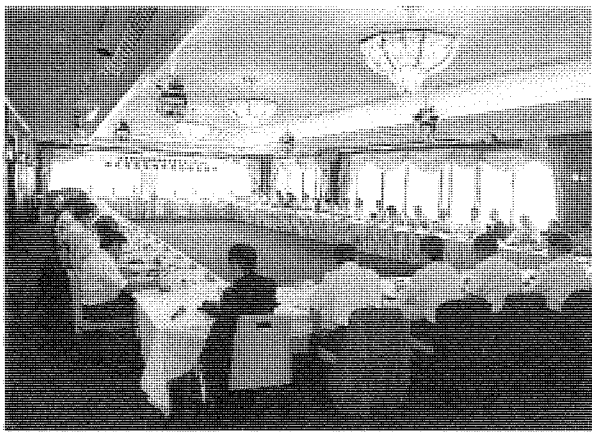
就任した鈴木新理事長

る、ということになります。いかに山村が豊かだったか、と言えるのではないのでしょうか。山村の活性化は、林業・木材産業の活性化なくしては実現できません。農業と違って、林業は雇用労働力が非常に大きい分野です。山村の活性化のためにも、なんとかして林業・木材産業の活性化を図っていかねければならないと思っております。そのためにはA材からD材まで、全てお金にして山に還元するということが極めて重要だと思えます。今まで培ってきた知識と人脈を活かしながら、皆様のご期待に沿えるよう頑張つて参りたいと考えております。加えて、持続可能な林業経営を実現するためには、伐つたら植える、そして後継者を育てていくということが重要なポイントではないかと考えております。これから皆様のお知恵とご協力をいただきながら組合員の皆様の隆盛と地域の発展に貢献できるよう努めて参りますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

# トピックス

## 第1回東北地区需給情報連絡協議会を開催

東北地区広域原木流通協議会(会長・NJ素流協鈴木信哉理事長)は、平成28年度第1回「国産材の安定供給体制の構築に向けた東北地区需給情報連絡協議会」を7月22日、盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングで開催し、川上・川中・川下の関係者70名が出席した。



開会にあたり、林野庁の内田敏博林業・木材産業情報分析官は「今年1月く5月

の新設住宅着工戸数は前年比7%増、木造は8%増で推移しており、製材関係の

荷動きも昨年より増加しているが、一方で木材価格を見ると、スギ中目材は今年に入り少しずつ下落しており、急激な円

高の進行による外材価格の下落と輸入量の増加が影響しているのではないかと考

えている。本日は地域の関係者が一堂に会して需要と供給を見極めながら、そ

れぞれがメリットを得ていただきたい」と挨拶した。

続いて林業関係施策に係る情報提供と鈴木会長による挨拶が行われた後、秋田

県立大学の飯島泰男名誉教授が座長を務め、原木等の需給情報等について出席者

からの報告が行われた。

### ▽主な報告内容

#### 【林野庁】

・28年度の東北ブロックにおける素材生産量(国有林と民有林の計)は433万

m<sup>3</sup>(注：全ての立木販売が落札された場合を想定)、原木需要量は401万m<sup>3</sup>(注

：年間原木消費量1万m<sup>3</sup>以上の製材工場等の需要量)と見込まれ、原木需要量の

うち製材・集成材用が106万m<sup>3</sup>、合板・LVL用が153万m<sup>3</sup>、製紙用が91万m<sup>3</sup>

燃料・バイオマス発電用が51万m<sup>3</sup>となっている。

・28年度の造林見込面積は3031haで、苗木の生産供給量は723万本となっている。

#### 【東北森林管理局・森林整備センター】

・28年度の国有林の素材販売量は前年計画量の103%となる71万m<sup>3</sup>を計画。こ

のうち35%が委託販売、65%がシステム販売である。立木販売は前年計画量の90%となる183万4千m<sup>3</sup>を計画している。

・28年度の国有林における植栽見込み本数は222万3千本のうち4割がコンテナ苗である。29年度は265万7千本の

植栽が見込まれている。

・森林整備センターの28年度事業計画では東北ブロックにおいて搬出間伐640

0m<sup>3</sup>、主伐(立木販売)9300m<sup>3</sup>が計画されている。

#### 【各県】

・B・C・D材の需要は増加しているが、それに相当するA材需要が伴っていない。

・林地残材の有効活用が課題である。

#### 【素材生産・県森連・木材流通】

・素材生産の従事者は増加しているが、造林・保育作業やチェーンソーによる伐倒

作業の従事者が減少している。

・中小製材工場の生き残り策を講じる必要がある。

・合板材では2m材よりも4m材の要望が増えており、採材を見直す必要がある。

・低質材は不足傾向にあり林地残材の活用を検討する必要がある。

・今年に入り管柱のスギ集成材化が進んでいる。山形県の大規模集成材工場は今年度後半に稼働予定であり、新たな需要先として期待されている。

#### 【製材・集成材】

・現在スギ集成材の需要は旺盛だが、ホワイトウッドの品不足による一時的なものと考えられる。今後に備え、素材生産

から加工に至る各工程での更なるコストダウンの努力が必要である。

・震災復興後は需要が半減すると見込まれ、中高層住宅や非住宅への需要拡大を進めることが課題である。

#### 【合板】

・昨年の減産で在庫調整が図られ、減産解除後は品薄状態が続いている。

・非構造用合板(針葉樹フロア台板、針葉樹塗装型枠等)の生産を増やしているが、カラマツの確保が課題である。

【製紙・チップ】

・国有林材のシステム販売(第1次)において協定締結がかなわず今後の低質材の確保に大きな不安を感じている。

・既存利用に影響を与えないという林野庁ガイドラインを遵守するための具体的な方策が必要である。

【木質バイオマス発電】

・地域毎に既存需要者と需給情報交換を行う等、需給調整の方法を検討する必要がある。

【苗木】

・カラマツ、スギの種子不足により今後苗木供給に影響が出ると考えられる。

▽総括

【林野庁内田林業木材産業情報分析官】

A材利用が進まないとC・D材が供給できないというのは全国共通の課題である。例えば北海道ではトドマツ2×4の試作に取り組んでおり、このような地場でのチャレンジが必要である。

【鈴木協議会長】

本日は針葉樹の話題がメインだったが、需給が最も逼迫しているのは広葉樹のマテリアル利用の原木である。原木市場の情報をごきちんと山元に伝える仕組みを考

える必要がある。

▽平成28年度東北地区広域原木流通協議会事業計画

今年度は需給情報連絡協議会の開催(2回)、原木輸送に係る情報の共有化、大規模木材加工工場・木質バイオマス発電所の需要と今後の予測等の取り組みを各県毎に行うこととしている。

岩手県低コスト再造林促進協議会設立される

岩手県低コスト再造林促進協議会の設立総会が7月19日、盛岡市において開催され、当組合竹田参与が出席した。

同協議会は、6月10日号でお伝えした再造林促進に係る基金創設に向けての第一歩として、岩手県森林組合連合会、岩手県森林整備協同組合、N J素流協、岩手県山林種苗協同組合の4団体の代表者により組織されたものである。今年度は29年度に予定されている「岩手県森林再生機構(仮称)」設立と協力金徴収に向けて、基金運営の具体的検討や業界への周知を図る取り組み等を行うこととしており、再造林に係る助成金の交付は30年度に開始される予定である。

木材利用システム研究会で高橋常務理事が講演

木材利用システム研究会(会長・東京大学アジア生物資源環境研究センター井上雅文教授)の第58回月例研究会が7月21日、東京大学において開催され、当組合高橋常務理事が「拡大する素材需要に対するN J素流協の取り組み」と題し講演を行った。

地区別組合員会議を開催

N J素流協平成28年度地区別組合員会議を7月28日から8月4日にかけて、青森県を含む4地区において開催した。開催日時等は表の通り。

事務局から平成28年度事業方針と木材需給の動向、低コスト再造林の取り組み状況、労働安全作業の推進等について説明した後、組合員との情報交換を行った。県央地区での質疑応答の一部を紹介する。  
Q: 高性能林業機械の導入に踏み切れないでいるが、経費と作業効率とのバランスはどうか。  
A: 機械が新しいうちは非常に効率が良いが、故障が増えてくるとメンテナンス

表 平成28年度地区別組合員会議開催状況

地区	開催日	会場	参加組合員数	参加人数
青森	7月28日	七戸中央公民館	14	20
県央	8月2日	岩手産業文化センター(滝沢市)	23	27
県北	8月3日	二戸市民文化会館	15	17
県南・沿岸	8月4日	住田町農林会館	20	27
計			72	91

に時間と費用を要する(参加組合員より)。

Q: バイオマス用早生樹として広葉樹を検討するということだが、発電所での受入れ予定はあるか。

A: 現状では広葉樹はパルプ材として有利に販売できるため発電用としての受入れは無いが、今後出材が見込まれれば納入は可能である。

Q: このところ合板用カラマツの動きが悪くなっているが原因は。

A: カラマツの伐採量が増え在庫が増えている。震災の影響で減っている製造ラ

インが回復することがあれば、原木消費量の増加が期待できる。

### 西北プライウッドがCLTのJASを取得

西北プライウッド(株)は今年4月、石巻工場にてCLTのJAS認定を取得した。銘建工業、山佐木材、協同組合レングス、ウツドエナジーに続く5例目。樹種はスギで、厚さは40〜180mmの6種類、構成は3層・5層・7層・9層の4種類となっている(平成28年6月1日現在)。

#### CLTは直交集成板(Cross

Laminated Timber)と呼ばれ、

ひき板または小角材を繊維方向が直交するように3層以上積層接着したパネルで、ひき板は合板に用いるB材などから製材される。高い強度と耐火性、断熱性や遮音性にも優れることから、ヨーロッパでは10階建てまでのビルやマンションでの利用が進んでいる。

日本では2013年にJASが制定され、今年3月・4月には一般的な設計法や材料としての品質と強度等に関する告示が公布・施行されるなど、CLT工法へ取り組みやすい環境の整備が進んでいる。

る。

### 東北最大級の本質バイオマス発電所が稼働

秋田市向浜で整備が進められてきたユナイテッドリニューアブルエナジー(株)の本質バイオマス発電所の完工式が7月15日、同発電所において行われた。

出力は2万kWで東北最大級。使用する燃料は秋田県内全域から供給される未利用材等が7割、PKSが3割で、未利用材等は年間11万5千トン使用される計画となっており、関係者の注目が集まっている。

### ウェブ入札が始まります

NJ素流協が行う国有林材の山元委託販売は、従来の入札書による入札方式からインターネット入札(ウェブ入札)方式に移行し、8月31日に行う入札から新しいシステムを導入することとしている。

ウェブ入札のメリットとして、①入札会場に足を運ばなくても事務所や自宅のパソコン、又はスマートフォンでの入札が可能②ウェブ上で物件一覧、物件の写真を閲覧できるほか、物件明細のダウン

## 国有林素材山元委託販売 入札結果

市日：平成28年7月13日(水)

市場：岩手北部森林管理署(第1回)

(参加者人数 10名)

売払番号	樹種	長級(m)	径級(cm)	等級	本数	材積(m <sup>3</sup> )	応札枚数	土場
101-1	スギ	4.0	14-40	込	905	154.022	8	鍋越山
101-2	スギ	4.0	14-38	込	517	86.510	7	鍋越山
101-3	スギ	2.0	14-46	込	1,196	82.845	5	鍋越山
101-4	スギ	4.0	14-46	込	363	67.216	5	切通山
101-5	スギ	4.0	14-38	込	583	100.816	6	切通山
101-6	スギ	2.0	14-46	込	409	37.794	3	切通山
101-7	スギ	2.0	14-46	込	494	49.720	4	切通山
101-8	スギ	2.0	14-34	込	480	39.521	3	切通山
101-9	カラマツ	4.0	14-30	3等	143	21.906	4	切通山
101-10	カラマツ	4.0	14-34	3等	499	76.302	4	切通山
101-11	カラマツ	4.0	14-30	3等	604	79.088	4	切通山
101-12	カラマツ	2.0	14-30	3等	323	25.985	6	切通山
101-13	カラマツ	2.0	14-30	3等	955	65.497	4	切通山
101-14	カラマツ	2.0	14-32	3等	665	51.670	5	切通山
合計					8,136	938.892		

ロードが可能③縮切りまでの好きな時間

に入札が可能④入札結果や落札物件の確認

認が可能、等が挙げられる。

詳しい手順については後日お知らせし

ますので、皆様のご参加をお待ちして

ます。

### 事務局職員紹介

NJ素流協に6月から新しいスタッフが加わりましたのでご紹介いたします。

○営業企画課長補佐 小嶋智巳

#### (ナイス株からの出向)

◆出身地：岡山県

◆趣味・特技：森歩き、自転車乗り、音楽聞き、写真撮り

◆皆様に一言：6月末からお世話になっ

ています。それまでスギとカラマツ丸太

の区別もつかなかったほどの素人ですが、

山の資源が有効に活用されるような仕組

みづくりに貢献できたらと思います。い

ろいろと教えていただきたく思いますの

でどうぞよろしくお願ひします。

## ちよつと気になる木の話

1

## 広葉樹丸太の現状には注目

国産広葉樹の価格の上昇が続いている。何故かである。

広葉樹市場のメッカである旭川林産協同組合の銘木市では、一時期はロシア産ナラ、タモが幅を利かせていたが、姿を消してきている。合板がロシア産から国産に大きく転換したのはロシアの丸太輸出関税の引上げ問題からであるが、この時広葉樹の関税が大きく引き上げられた(針葉樹は引上げ直前に中止となったが、日本国内の市場は合板・製材とも完全にロシア丸太から離脱してしまつた)。大きな問題となると予測されたが、広葉樹業界は、ロシア産丸太の在庫と円高による北米・欧州からの輸入増で賄おうとしていた。ここに来て円安に振れ、ワイン樽のオーク需要もあり輸入量・価格ともに厳しさを増している。一方、国内でも国産フローリング需要や、国産複合床板基材に合わせた厚ツキ(厚くスライスした単板)の商品開発等による需要の増大もある。結果、広葉樹の売りも活況を呈し



活況を呈した昨年の広葉樹市(盛岡共販)

ている。旭川林産協も冬場には久しぶりの大量出品となり、岐阜の広葉樹市場も活況を呈している。東北も、盛岡共販、津軽共販、雄平木材市場等、広葉樹の取扱量は急増している。かつてと違うのは、①出品径級が大幅に下がっていること②取扱い樹種が幅広くなっていること③北海道・東北の比率が6:4から4:6となり東北の比率が高まっていることが挙げられる。広葉樹市場の現状を見れば、一般的には20cm以上であるが、クリなら14cm、シラカンバナら18cmと更に径の小さいものも用途がある樹種は出品される。また、ハンノ

キ、サワグルミ、ニセアカシア、シラカンバナなど、従来用材とはなり得なかつた樹種も量が揃えば買手はついてきている。

こうした中、東北の広葉樹の問題は、2・2m(2・1m)採材の比率が高いことが挙げられる。広葉樹全盛時代の北海道をはじめ、一般的には4・3m、3・2mが主流であり、銘木業界では有尺を基本としている。2・2m(2・1m)は、パルプ材の中から良い物を選別していると思われるも仕方がない。

これでは、チップ工場でパルプ材として入荷したものを選別していることと変わりはなく、価格を下げていることになる。もちろん、2・1mも広葉樹の採材としては従来からある基準寸法の一つであり、1・8mでも本来は大丈夫である。でも長は短を兼ねるのは間違いない。とにかく、一度は自分の目で価格を確かめてみるのが必須である。

もう一つの特徴は、ナラ薪需要の高まりである。飲食業向けの業務用として毎年品切れ状態のため、市場で用材にならないナラの小径材、曲がり材が

出品されて取引されている。何故かといえ、ナラ薪の需要者が入手先と結びつきがないことにある。薪炭間屋が扱えば問題は少ないが、異業種からの参入が続いている。こうした需要者とのマッチングも必要なことである。岐阜県内のあるチップ工場では、薪に向かない樹種を除いては、広葉樹は全て薪生産に向けられている。

最後に、シラカンバやアカシアの板は海外から輸入されている。大手建材メーカーのカタログには、国産広葉樹の商品リストが既に載っている。WP C (Wood Plastic Composite: 木材・プラスチック複合材)には乾燥後空隙の大きいサワグルミが好ましい等、目からウロコの情報がある。現在ケヤキの価格は一時期の3分の1に下落したが、逆にトチノキは3倍になっている。

いずれにしても、広葉樹は水が上がらない秋以降の伐採である。量がまらまらないと全国から買手は集まらない。加えて、北東北に広葉樹加工メーカーの有力どころが集積している。素材生産業者の一致団結が必要である。

平成28年7月分の販売実績

樹種	合板用			その他 製材用等			計		
	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	9,160	108.4	159.8	5,283	103.5	76.2	14,442	106.6	114.0
カラマツ	2,407	99.4	55.8	1,336	110.4	200.7	3,743	103.1	75.1
アカマツ	2,190	127.9	87.8	107	43.4	49.1	2,297	117.2	84.7
その他針葉樹	0	*	*	0	*	*	0	*	*
広葉樹	0	*	*	37	342.5	24.6	37	342.5	24.6
合計	13,757	109.3	109.7	6,763	102.9	84.9	20,519	107.1	100.0

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	5,301	115.9	293.5
カラマツ	2,355	83.9	88.5
アカマツ	849	67.9	63.0
合計	8,505	98.5	146.3

樹種	今年度累計			
	合板用 (m <sup>3</sup> )	その他 製材用等 (m <sup>3</sup> )	計 (m <sup>3</sup> )	バイオマス (t)
スギ	31,046	19,024	50,069	14,853
カラマツ	9,866	5,596	15,463	7,997
アカマツ	10,544	919	11,463	6,915
その他針葉樹	0	0	0	0
広葉樹	0	81	81	0
合計	51,457	25,620	77,077	29,766
目標達成率 (%)	28.6	25.6	27.5	33.1
計画量	180,000	100,000	280,000	90,000

注) \*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成28年7月の需給動向】

- スギ原木の動きは更に停滞し、小径木や2m材の受入制限が強まった。
- カラマツ原木も供給過多な状況が続き、受入制限が始まった。
- バイオマス用素材は、素材価格の高騰や他発電所等の引き合いにより供給減。

耳からウロコ

福井市の桜の名所、足羽山の下には大きな空洞があり、墓地在崩落したことがあった。この空洞は、石とり場の跡である。

この石を使った墓石が、北海道松前や下北半島に江戸時代から存在している。もちろんトラックはないので、船である。北前船で運んだのである。

理由は、京都からの船荷である衣類・工芸品では船のバランスが取れないので重しとして運んで、それを活用したとのことである。帰り荷では、ニシンカス、昆布等の海産物に重しとしてヒバ、天スギが運ばれており、北陸の海岸線にある北前船の御殿には、ヒバ、天スギが使われている。

この結果は現代の地域文化にも影響を与えている。ちょっと違和感のある京都のニシンソバ、敦賀のおぼろ昆布等の名物のほか、沖縄が一人当たりの昆布消費量日本

一なのもこのためである。

沖縄への昆布は、藩境を自由に通れた北前船の寄港地である富山の薬売りが薩摩まで運んで、沖縄経由で中国に輸出したためと言われている。また、渡島・松山の森林蓄積量が低いのは、ニシンカスづくりに大量に燃料として燃やしたためとか。

北前船の船主は膨大な富を築き、明治期以降、金融業等日本の大企業の源流となっていくこととなる。いずれにしても、物流の原点は行き荷と帰り荷のバランスであることが分かる。北前船に学ぶことは、現在の木材業界にも骨身にしみる内容である。

